

# 翔

百万石蝶談会



NO. 86 OCTOBER 1990

蝶ノ羽上リ替イ向

## 金沢市でゴマシジミとアサマシジミを発見

松 井 正 人

1989年にゴマシジミが富山県袴越山で発見され、白山北方稜線上に連続して分布する可能性がでてきたことから、金沢市の犀川源流域を調査したところ、見越山にて発見し、さらには同地にてアサマシジミも発見した。

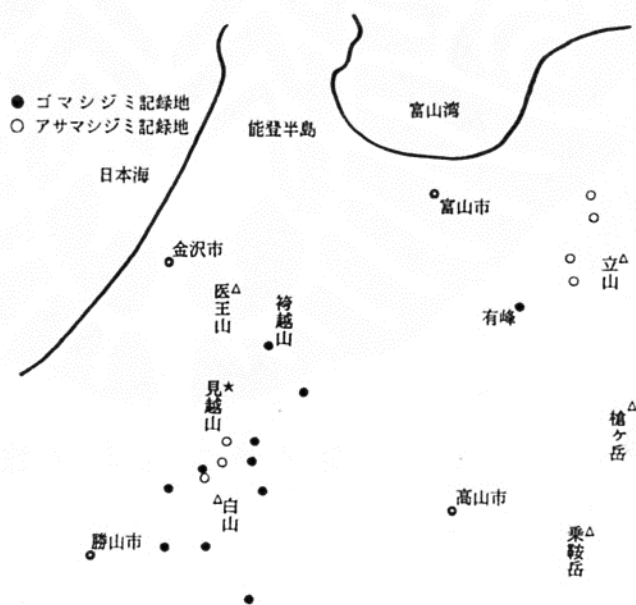
1990年8月1日 金沢市見越山（標高約1500m） 松井正人  
 ゴマシジミ 7頭 アサマシジミ 2♂2♀

発生地と思われる岩場は、カライトソウ、イワオウギが花盛りで、ほとんど草の付いていない所と、完全に草に覆われている所からなっていた。

北陸地方に於ける高地性ゴマシジミは、図の様に白山周辺と有峰地方から知られ、アサマシジミは、石川県の手取川、富山県の片貝川、早月川、常願寺川の各水系から知られている。今回発見された見越山は白山北方稜線に連なり、ゴマシジミの分布は予想されていたものの、アサマシジミの分布は全く予想されていなかった。

アサマシジミについてはこれまでかなり調査されているが、発見されるのは食草ばかりで、石川県に於いては手取川の尾添水系のみの分布とされていた。今回の発見地は、金沢市を貫流する犀川の最上流部で、手取川水系には属さない事から、今後近隣から更に多くの産地が期待される。また、尾添水系に於ける最上流部の産地はいずれもイワオウギを食草とし、今回もその可能性が強いことから、イワオウギを目標に調査を進めれば良いかと思われる。

多くの昆虫愛好家は年を経るに従って、より多くの昆虫に接しようとしてフィールドを広げ、とかく良くなじんだ地元フィールドをおろそかにしがちであるが、勝手知りたる地元に新たな可能性を求め、未知の分布を想像することは心ときめき、時には今回の様な事もあるので、狭い地元だけをフィールドにしても、なかなか楽しいものである。



《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 石川県白峰村大杉谷林道で採集したカミキリについて

澤 田 博

石川県ではこれまで記録のなかった、コウヤホソハナカミキリを白峰村大杉谷林道で採集したので、報告する。

コウヤホソハナカミキリ *Strangalia koyaensis*

石川県白峰村大杉谷林道 1990年7月23日 4♂

" 1990年7月28日 2♂

このうち5頭は、20年生ぐらいの杉の植林地の道沿いの1本のノリウツギの花に、次々飛来したものである。残りの1頭は、やはりスギの植林地近くのリョウブの花に飛来したものの。

寄种植物として、ヒノキ、スギが知られており<sup>1)</sup>、大杉谷は名のとおり古くからスギが自生していたものと考えられる。

マルガタハナ、フタスジハナ等と共に採集され、これらが従来あまり多くないとされていたのは<sup>2)</sup>、この時期、ブナ帯下部のスギの植林地で採集を試みる事が少なかったためと考えられる。

また、同地にて植林のために伐採された広葉樹を積んである所でトラフホソバネカミキリを採集したが、県内では過去白峰村の白山六万山で記録があり<sup>3)</sup>、白峰村三谷にも記録があるらしい<sup>4)</sup>が、久しく記録がなかったものである。

トラフホソバネカミキリ *Thranus variegatus variegatus*

石川県白峰村大杉谷林道 1990年7月23日 2♀

なお、7月29日に同じ場所で、井村正行氏と、上田昇氏により2♀が採集されている。

## 〈参考文献〉

- 1) 日本鞘翅目学会(1984) 日本産カミキリ大図鑑 講談社
- 2) 井村正行(1986) 石川県のカミキリムシ科(その3) 翔(58)
- 3) 高羽正治(1959) 石川県のカミキリムシ とっくりばち(7)
- 4) 井村正行(1986) 石川県のカミキリムシ科(その5) 翔(60)

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

ウスイロコノマチョウ石川県に上陸

幻シリーズ第3段、幻の迷蝶ウスイロコノマチョウが採れている。

1990年9月13日 小松市中海小学校玄関 1頭 東 祥弘・坪内邦弘

北陸中日新聞9月26日朝刊

## ツマグロヒョウモンの集まる山

松 井 正 人

最近ではアサギマダラの調査もあって、良く宝達山へ出かける。調査地は頂上付近で、1日中その辺りにいるが、その日は調査に出かけたものの、アサギマダラがほとんど観察できなかった。ぼんやりしているとヒョウモンが砂利道に止まり、それがツマグロヒョウモンだった。

その日から調査のかたわらヒョウモンに注意し、5♂のツマグロヒョウモンを採集した。

押水町宝達山頂上（標高637m） 松井正人 調査

|            |       |           |       |
|------------|-------|-----------|-------|
| 1990年8月25日 | 3♂採集  | 1990年9月5日 | 発見できず |
| 1990年8月26日 | 1♂採集  | 1990年9月8日 | 1♂採集  |
| 1990年8月29日 | 発見できず | 1990年9月9日 | 発見できず |

ツマグロヒョウモンの♂は、見晴らしの良い山や丘の頂上に集まる習性があり、それが土着地ではなく飛来地となると、さらに海岸付近（海が見える）といった条件が付け加えられる。次の表は県内に於けるツマグロヒョウモンの記録であるが、9例のうち7例までが海岸付近の山であり、その中でも宝達山頂上は見晴らしが良く、残り5例もおそらくは「見晴らしの良い山頂」での記録と思われる。

|             |          |      |           |
|-------------|----------|------|-----------|
| 1963年8月15日  | 押水町宝達山頂上 | 1♂   | 嵯峨井 均 (1) |
| 1981年8月15日  | 押水町宝達山頂上 | 1♀目撃 | 嵯峨井淳郎 (1) |
| 1955年8月28日  | 金沢市市瀬    | 1♂   | 福田 太睦 (2) |
| 1961年8月29日  | 金沢市医王山白元 | 1♂   | 桜井 正喜 (3) |
| 1954年9月5日   | 金沢市戸室山   | 4♂   | 山本 順子 (2) |
| 1957年9月9日   | 金沢市倉ヶ岳   | 1♂   | 村中 泰次 (2) |
| 1955年9月30日  | 金沢市倉ヶ岳   | 1♂   | 山辺 (2)    |
| 1961年10月15日 | 金沢市別所黒壁  | 1♂   | 越 野 裕     |
| 1954年10月18日 | 金沢市大乘寺山  | 1♂   | 武 藤 明 (4) |

ツマグロヒョウモンは石川県では迷蝶で、その記録は少ないが、その習性から集まる山を知っていれば、今後より多くの個体が観察できることと思われる。

## 参考文献

(1) 嵯峨井淳郎(1981)宝達山頂にてツマグロヒョウモン雌を目撃 翔(23):6

(2) 武藤 明(1958)石川県の蝶 新昆虫 11(3):39~40

(3) 桜井 正喜(1962)医王山の昆虫

(4) 武藤 明(1957)金沢市附近の蝶相について とっくりばち(3):16~17

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 白山のハクサンヒメハナカミキリ

野 中 勝

シラネヒメハナカミキリ (*Pidonia obscurior*) の本州中部地方の亜種 *P.o.hakusana* はハクサンヒメハナカミキリと通称される。白山釈迦林道に於ける本種の個体数は、井村(1986)によれば「さほど多くない」とされ、また澤田(1990)の同林道の調査(1989年5月28日～7月31日)で得られた14種のピドニアのうちで、個体数はイヨヒメハナ、ヒメハナについて少ない方から3番目となっている。しかし、1989年7月30日に同林道を訪れた際、本種を多数採集することができたので報告したい。

1989年7月30日 白峰村白山釈迦林道(標高1600m付近) 23♂7♀ 野中 勝

採集した個体は、日陰のオニシモツケの花に集まっていたものが主であるが、日当たりの良い所に生えた1本のカラマツソウの1種の花に次々と飛来するのも観察された。白山のハクサンヒメハナも、時、所を選べば比較的多い様である。

## 〔参考文献〕

井村正行(1986) 石川県のカミキリムシ科(その2) 翔(56):6～10

澤田 博(1990) 白山釈迦林道ヒメハナカミキリ属調査記録(1989) 翔(82):6～8

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

## 白峰村百合谷でエサキキンヘリタマムシを採集

野 中 勝

エサキキンヘリタマムシ (*Scintillatrix kamikochiana*) の石川県からの記録は、井村正行氏が白峰村大杉谷にて1♂1♀を採集したものが知られているに過ぎない。以下の如く追加記録を得たので報告しておく。

1990年7月22日 石川県白峰村百合谷(標高800m付近) 2 exs 野中 勝

1990年7月29日 " 1 ex 野中 勝

7月22日のものは、林道脇の高さ5m程の柳の枝を歩行中のものを、7月29日のものは、約20m離れた高さ10m程の柳の枝に静止中のものを採集した。採集地の標高が比較的低いのが興味深い。また、7月22日には付近でヒメオオクワガタ1♂1♀も採集したことを付記しておく。

末筆ながら過去の記録について御教示頂いた、井村正行氏にお礼申し上げる。

## 〔参考文献〕

(1)井村正行(1984)月刊むし(155):32

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

ヤマエングサクにてウスバシロチョウの幼虫を採集

上 田 昇

4月22日(晴)蛇谷の河原にてヤマエングサクが咲いている所に松井氏が案内してくれる。上田、他4名が花の回りを見つめる。食痕と糞が回りに付いている。その時に背中が黒くて2本の筋が入っている幼虫を発見する。咲いている花の回りを見て回り、しめて6頭を採集する。私にとっては初めての体験であり、幼虫であり、ヤマエングサクであった。

持ち帰り、ムラサキケマンにて飼育すると、皆無事に5月8日に羽化した。

1990年4月22日 吉野谷村中宮付近蛇谷河原 6幼 上田 昇 他4名

最後に、この貴重な体験に協力して頂いた、松井、野中、中西、井村の各氏に感謝いたします。 《うえだ のぼる 〒920<sup>01</sup> 金沢市百坂町イ27-9》

石川県でシロスジシャチホコを採集

野 中 勝

シロスジシャチホコ(*Nerice davidi*)は日本産蛾類大図鑑(講談社)によれば、ハルニレを食樹とし、本州中部以北にやや局地的に産する種とされ、従来石川県からは未記録であったと思われる。本種を以下の如く採集したので報告する。

シロスジシャチホコ 1990年8月18日 石川県白峰村白峰 1♂ 野中 勝採集

文末ながら、石川県の記録の有無について御教示頂いた富沢 章氏にお礼申し上げます。 《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

アカハナカミキリの伝説

澤 田 博

アカハナカミキリは、全国に分布し、普通種とされている。私も昔々、長野県の白樺高原(1968年)で、草原のシシウドに本種だけが群がっていて、他に何のカミキリも採れなかったことを覚えている。

ところが、同じころ、石川県では本種は1頭しか採集されておらず、ハナカミキリでは、白山の翠ヶ池に浮かんでいたというカエデノヘリグロハナカミキリとともに非常に珍しいということになっていた。

その後カエデノヘリグロハナは、白山の釈迦林道のカエデの花に集まることが分かり、多数採集されるようになったが、アカハナは依然として記録は少ないままであった<sup>1)</sup>。

昨年の8月下旬、橋場 清氏が白峰村の砂御前岳で2♂1♀を採集され<sup>2)</sup>、私も今年、砂御前山(頂上標高1326m)上部のゴマシジミのポイントで飛翔中の本種を採集した。

1990年8月8日 1♀採集 石川県白峰村砂御前山 澤田 博

さて、私が昆虫採集全般に興味を失っていた1983年の夏のある日、私の住んでいる金沢市中心部の石引商店街(標高60m)のアーケードの天井に何やら茶色のカミキリが止まっていた。どうにも何かわからなかったので、家から補虫網を持ってきて採ってみた。アカハナカミキリであった。

しかし前年に小松市の動山(ゆるぎさん・頂上標高603m)の中腹で、1頭採集していたこともあって<sup>1)</sup>粗末にし、ホコリと化して標本としては残っていない。

さて、こうしてみると石引商店街で採集されたものが、山から伐り出された木について市街地へ運ばれたものでなければ、アカハナカミキリは平地からブナ帯まで分布することになる。分布が日本全土であるので、十分にありうることであり、あなたの家の裏山、いや庭先でも採集されるかもしれない。

#### 〈参考文献〉

- 1) 井村正行(1986): 石川県のカミキリムシ(その3) 翔(58)
- 2) 橋場 清(1990): 石川県におけるアカハナカミキリの採集記録 とっくりばち(56)  
《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

#### Self introduction

左 合 直

自宅 〒910 福井市木田1-2107 パセオ木田22号 ☎ 0776-34-7106  
AB型 昭和33年2月25日生まれ 医師

純蝶屋。ここ7~8年は写真だけで標本はなし。原産地は名古屋市で学生以後は、京都→大阪→京都と分布を移し、平成2年4月より福井に土着する。蝶屋としての活動開始は小学生からと比較的早く、大きなブランクもなく現在に至る。しかし局地性が非常に強く、その活動のほとんどは生息地域である信州、東海、近畿に限局する。従って長い蝶暦のわりに、南西諸島、九州、四国では未記録。北海道ではようやく昨年7月に大雪山で記録された。とくに選り好みをするタイプではないが、北アルプスでは毎年コンスタントに記録されていることから、基本的には山地性、あるいは北方系の種と考えられる。

なお、北陸地方についての知識が極めて乏しく、その蝶屋活動の維持には適切な指導、助言が必要であろう。

《さごう ただし 〒910 福井市木田1-2107 パセオ木田22号》

## 簡単な展翅標本のシミ抜き法

指 田 春 喜

ムラサキシジミ、ルーミスシジミ、オオゴマシジミ、キリシマミドリシジミ、クジャクチョウ、ルリタテハ、コヒオドシ、エルタテハ、e t c。

本邦産のこれらの蝶の標本のうち、箱に入れてから数年以上を経たものには、翅表の一部に油・シミが浮き出てしまい、翅のその部分が濡れている感じになっているものがいくつかあるあると思う。ルーミスシジミやミドリシジミのような金属光沢の翅を持つ蝶ではその部分が黒褐色に「べとっ」といった感じになっているはずである。これは蝶の体より油分がしみ出てきた結果、翅を汚してしまったのである。この油（アブラ・シミ）が浮き出る原因については色々考えられるが、幼虫時代のエサ（食草）がその原因でないかとみるのが一般的である。

近年、蝶の標本作成の技術の向上は著しく、近頃の標本は一昔前のそれとは比べものにならない程美しいで栄えである。その中でも特筆すべきは、傾斜展翅板、そして軟化展翅における筋肉破壊法と接着剤の使用であろう。しかしながら、このようにしてせっかくできあがった美しい標本も数年たち、アブラ・シミが出てしまったら、いくら展翅が良くても全くお話にならない。多くの人の標本箱の中にも、上記の蝶のいくつかは油が出てしまったものがあると思われ、何とかならないかと言うところではないか。そこでその除去方法を会員に伝授いたそう。

アブラ・シミ抜きの原理はいたって簡単である。有機溶媒（物質を溶解させる目的に使用する室温で液体のものを一般に溶媒と言う）、この場合はアセトンかエーテル（普通はエチルエーテル）が適当であり、これにどっぷりと漬けて、汚れを除去した後に乾燥させればそれで良い。もう少し具体的に説明すると、以下の様になる。

## 《 用意するもの 》

1. アセトンあるいはエーテルを200～300cc

共に消防法で定めるところの危険物（アセトンは第一石油類、エーテルは特殊引火物）であるので火気厳禁。特にエーテルは沸点が低く（34℃）、引火性が強いので注意を要する。ストーブのそばや、くわえタバコはもってのほかである。

2. 大きめのビーカー（500ccぐらいのもの）

展翅標本が入る直径であれば充分。また、ビーカーが手に入らなければ、どんぶりでも代用できる。ただし、プラスチック製のものは溶けてしまうのでダメ！ ガラスか陶器製のものを使用すること。

## 《 方 法 》

1. ビーカーにアセトン200～300ccを入れ、これに油のしみ出ている展翅した標本をどっぷりと浸す。この際、標本を上下さかさまに、つまり針の

尖った方をつまんだほうが溶媒が少なくすむ。そして液に標本を入れる時は、液の表面に対して斜めにはわせるようにして、静かにそっと入れることが大事である。真上から勢いよく「じゃぽん」と入れようものなら、表面張力と浮力とで翅は押し上げられ、最悪の場合はバリッとなってしてしまうこともある。取り出すときも全く同様な注意が必要である。この間、5～10秒で十分であり、3、4回横に横にゆすってやると良い。

2. 溶媒から取り出した標本はそのまま静かに放置して、液体が気化(蒸発)してしまうのを待てば良い。しかしながら、湿度の高い時期などは気化熱により標本に湿気(水分)が付く可能性があるので、ドライヤーで遠くから熱風を送ってやるのがベストである。すぐに溶媒が蒸発して、きれいになった翅が復活するはずである。息を吹きかけてやると、蒸発は確かに早い、それにより呼吸中の湿気が付着するので止めたほうが良い。

これだけでアブラ・シミの浸みでた標本の多くがきれいになると思うが、もし、汚れのひどい個体などで充分に取り切れなかったものはもう一度同じ事を繰り返せば良いだけである。つまり、汚れの軽微なものからやっていき、溶媒が黄色になってきたら取り変えてやる。あるいは二度洗いの要領で行えば良い。

なお、本法は生展翅の標本だけでなく、軟化展翅の折、水溶性の木工用ボンドを使用してあるものにも何ら支障なく適用できる。さらに、胴体に一部をヒョウホンムシにやられたものや、カビの生えたものなどに本法を施してやると、殺虫効果やカビ取り効果もあり、きれいさっぱりする。

しかしながら、三角紙に包んでおいた時、腹端からの「おもらし」により翅が汚れてしまったものには、それが水溶性の物質であるために、本法は適用できない。また、ギフチヨウやウスバシロチョウなど(特に♂において)のように体毛が密生しているものでは、それがくっついたままで乾燥してしまい、「ふわっ」とした状態に戻らないなどの欠点はある。だが本法は、コールターが付着したようになってしまったミドリシジミの翅に元通りの光沢を蘇らせることができるのである。この一点だけでも多少の難を払拭するに充分であろう。とにかく一度お試しあれ! その素晴らしさがお分かりいただけると思う。

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

| ○        | 短          | 報     | 21   | ○     |
|----------|------------|-------|------|-------|
| スジガシロチョウ | 1990年3月10日 | 金沢市額谷 | 1頭目撃 | 嵯峨井裕子 |
| ギフチヨウ    | 1990年3月10日 | 金沢市額  | 2頭目撃 | 嵯峨井淳郎 |
| ギフチヨウ    | 1990年3月11日 | 小松市大野 | 1♂   | 松井正人  |
| ギフチヨウ    | 1990年3月23日 | 金沢市別所 | 9♂   | 野中勝   |
| ギフチヨウ    | 1990年3月27日 | 金沢市窪  | 60♂  | 嵯峨井淳郎 |
| ギフチヨウ    | 1990年3月27日 | 金沢市高尾 | 1頭目撃 | 松井正人  |
| ○        |            |       |      | ○     |

## まぼろしの泉丘標本

松井 正人

泉丘標本とは、泉丘高校生物部に保存されている標本の事で、かつて生物部に昆虫班があった頃に作られたものである。その中には石川県では今もって珍しい種、例えばムラサキシジミ、ツマグロキチョウ、エルタテハ、ギンボシヒョウモン、ツマグロヒョウモン、トラフホソバネカミキリ等が含まれているだろうにもかかわらず、正確な記録が残されていず、またその昆虫班が存在したのが1950年代後半から1960年代にかけてといった30年程昔の話であることから、その標本は『まぼろし』の存在となっていた。しかし、同校卒業生から珍しい標本を「見たことがある」とか、「生物部に置いてきた」と聞かされるにつれ、『まぼろし』が段々と現実味を帯びてきていた。

今回、かつて昆虫班だった澤田 博氏と同校生物担当の中田真砂教諭のご厚意により、この『まぼろしの標本』を実見する機会に恵まれた。時は同校創立記念祭の1990年9月2日、案内された生物準備室には多くの剥製と共に50箱程のインローガラス式標本箱が並べられていた。

しかし、箱をのぞくと虫ピンだけが整然と並んでいるものがほとんどで、わずかに蝶の入った3箱だけが樟脳の香りも残りそのままの状態に保存され、甲虫は食害されながらもかろうじて種が判別できる程度のものが2箱あったに過ぎなかった。この中から重要と思われるものを紹介したい。

|           |     |             |            |          |
|-----------|-----|-------------|------------|----------|
| クジャクチョウ   | 23頭 | 1962年7月31日  | 白峰村白山室堂付近  | 小西喜彦・他3名 |
| "         | 1頭  | 1962年8月1日   | 白峰村白山御前峰   | 越野 裕     |
| "         | 2頭  | 1963年8月3日   | 白峰村白山観光新道  | 中川憲吾     |
| クロコムラサキ   | 1♂  | 1964年6月19日  | 金沢市伏見川(鮎庭) | 吉田寛文     |
| クロコムラサキ   | 1♀  | 1962年6月27日  | 金沢市長坂      | 越野 裕     |
| ツマグロヒョウモン | 1♂  | 1961年10月15日 | 金沢市別所黒壁    | 越野 裕     |
| アカマダラコガネ  | 1頭  | 1962年7月25日  | 金沢市内川      | ?        |
| "         | 1頭  | 1962年8月12日  | 金沢市内川      | 小西喜彦     |

偶然残ったわずかな中にこれ程のものが入っていたとすれば、消え去ったものの中に一帯どれ程のものが含まれていたかはとても計り知れない。

今のところ、公共機関が管理する昆虫標本の運命は、皆似たようなものと思われ、いかに昆虫が市民権を得ていないか今更ながらに思い知らされたような気がする。何にはともあれ『まぼろしの標本』は、やはりまぼろしだったのである。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

# 会員の動き・しゃばの動き

■7月20日嵯峨井氏、珍しいトンボを採集。初記録のような、そうじゃないような、いい図鑑が無くて同定できないとぼやいていた。

■8月1日松井氏、金沢市内にてゴマとアサマを発見。ゴマは予想されていたが、アサマは大ニュース。

■8月5日野中氏、富山県は僧ヶ岳へ。途中大雨にあい霧にもまかれたが、学童登山に交じって無事ベニヒカゲ渦巻くピークに立つ。

■8月5日嵯峨井、松田のノンビリコンビ、新穂高方面へ。途中大雨に降られたが、現地は快晴。オオイチモンジの雄姿を堪能する。

■8月11日松井氏、宝達山でアサギマダラのマーキング中に幼虫を発見。これまた、大、大、大ニュース。

■8月11日上田氏、富山県は白木峰で燈火採集の予定が雨。それでも杉ヶ平で凸凹ヒゲナガを採集。

■8月19日白山釈迦林道。キベリもいなければアサギマダラもない。いたのは虫屋ばかりなり。

■8月19日松田氏、丸石谷で福井の左合氏を確認。氏は度々石川県に飛来しているらしいが、確認されたのは今回が初めて。

■8月19日指田氏、北海道へ向かう途中、ちよいと竜飛に寄ってゴマを採集。急斜面で大風が吹き荒れ、大変だったらしい。

■8月26日竹谷氏、前日に引き続き白山登山。加賀禪定道でエルタテハを確認し、カメラに納める。なんと3頭もいたらしい。

■県内初のヨコヤマトラ幻と化す。翔84号で報告されたヨコヤマトラカミキリが、なんとゴキブリに食べられてしまった。「イムラのバカ！」

■8月26日嵯峨井氏、板尾へ。カラス、ミーカラ、オナガ、クロと黒いアゲハを総なめ。全て吸水なり。

■8月26日澤田氏、桑食いのカミキリを求めて白峰村桑島へ。見渡すかぎりの桑畑は昔の話、今はクワカミキリがかるうじて生きのびる程しか残されていないかった。

■8月26日野中氏、新居完成間近につき、奥様と家具屋めぐり。

■8月26日集中研修でヨレヨレの上田のお父さん、野中氏に誘われて燈火採集。頭の中はまっ白で何が何だか分からないまま、オニクワガタをつかんでいた。

■田中氏、木に登ってオオムラサキの幼虫を捜している。卵塊があっても孵化は約半分、そして幼虫は極めてわずか。

■嵯峨井氏、板尾のミヤマカラスで強制採卵に挑戦。2日目に産卵し2日目に孵化、計4日で幼虫がウジャウジャにはビックリ。

■9月1日野中氏、白峰の燈火めぐり。市ノ瀬の燈火で釈迦林道から飛んできた上田氏を採集。

■9月2日田辺氏、丸石谷ゲート付近でオレンジ色の蝶を目撃。ムモンアカシジミかと思われる。

■9月9日田辺氏、白山釈迦林道へ行けどもキベリの姿は無し。福井の虫屋に会ったのみ。

田中氏、スミナガシの幼虫を飼っている。角が闘牛の牛みたいでカッコイイと言っていた。

9月15日高野氏、黒部ダムへ。まだきれいなキバリが飛んでいた。

9月23日野中、中西、井村の3氏、医王山へキノコ狩り。3人そろって何にも採れず。腹立ち紛れの採卵に、フジが1卵採れたとさ。

野中氏。標本室完備の新居が完成。ところで標本の移送だけ翌日になった勝ちゃん、新居1泊目は落ち着いて眠れなかったらしい。新居は、  
金沢市末町14-70-2 29-3676

## 例 会 の 記 録

8月3日城南管工2Fにて、8時より開催。今回はかつて金沢に住んでいた中川邦隆氏を囲んで、金沢の昆虫相、はたまた虫屋今昔について話がはずんだ。その他の主な話題は「山ゴマブームにのって砂御前は人だらけ。地元の虫屋は何にも採れない。」とか「今年は虫の当たり年、今年採れない虫は採れない。」等でした。

参加は中川、中田、澤田、野中、松井、上田、指田、田辺、竹谷、井村、勝海、中西(2人)の13人。

## 目 次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 松井正人：金沢市でゴマシジミとアサマシジミを発見     | 1  |
| 澤田博：石川県白峰村大杉谷林道で採集したカミキリについて | 2  |
| 松井正人：ツマグロヒョウモンの集まる山          | 3  |
| 野中勝：白山のハクサンヒメハナカミキリ          | 4  |
| 野中勝：白峰村百合谷でエサキキンヘリタマムシを採集    | 4  |
| 上田昇：ヤマエンゴサクにてウスバシロチョウの幼虫を採集  | 5  |
| 野中勝：石川県でシロスジシャチホコを採集         | 5  |
| 澤田博：アカハナカミキリの伝説              | 5  |
| 左合直：Self introduction        | 6  |
| 指田春喜：簡単な展翅標本のシミ抜き法           | 7  |
| 松井正人：まぼろしの泉丘標本               | 9  |
| 編集部：会員の動き・しゃぼの動き             | 10 |
| 編集部：例 会 の 記 録                | 11 |

とぶ NO.86

1990年10月5日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方  
百万石蝶談会  
☎ 0762-58-2727  
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所